資料２－３

Tourism Shinshu-IIYAMA
信州いいやま観光局

信越自然郷
Shinetsu-Shizenkyo

世界水準のスノーリゾート形成に向けて

一般社団法人信州いいやま観光局
インバウンド推進室　室長
柴田　さほり

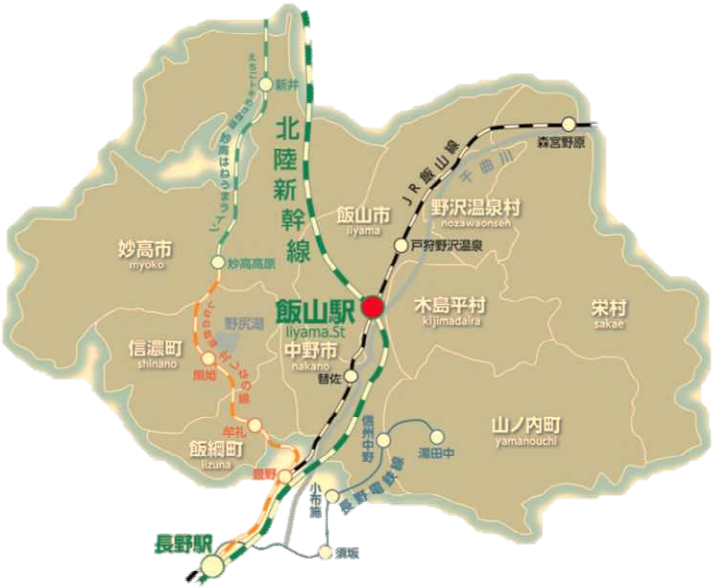
1. 信州いいやま観光局の現状

信越自然郷
Shinetsu-Shizenkyo

- 信越自然郷・9市町村連携のDMO
- エリア内スキー場数：38
  （野沢温泉スキー場、志賀高原スキー場、斑尾高原スキー場、妙高高原スキー場等）

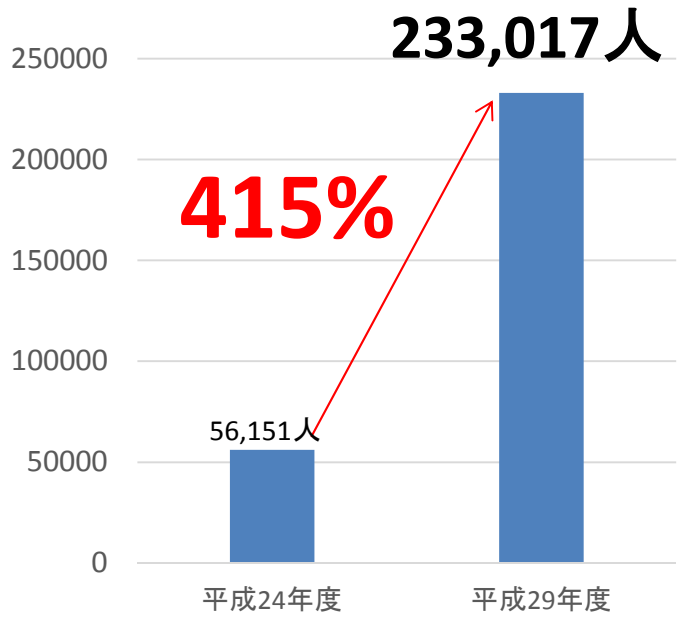
スノーモンキー

野沢温泉　道祖神祭り



北陸新幹線飯山駅がハブ機能を有する

信越自然郷（9市町村）外国人延宿泊者数



2. 魅力ある体験コンテンツ開発の必要性

信越自然郷 Shinetsu-Shizenkyo

＜信越自然郷エリアコンテンツ開発＞

●レストランかまくら村：　1カ月間で約1,500名の訪日外国人（全体で約4,600名）
●スキー場をマウンテンバイクで滑走⇒長期滞在中の新たな体験提供

レストランかまくら村

マウンテンバイクでスキー場を滑走

スノーシュー（雪上ハイキング）

＜世界のスノーリゾート＞

●１年を通じて体験コンテンツを提供（カナダのウィスラーでは38のマウンテンバイクコース）
●多様な魅力あるコンテンツの開発、ナイトタイムの対応力

- ✓ 人と自転車を運べるリフト
- ✓ マウンテンバイクコース（カナダ）
- ✓ アイスホテル（スウェーデン）
- ✓ 犬ぞり体験（ノルウェー）

3. 現状

信越自然郷 Shinetsu-Shizenkyo

・・・海外の、ウィスラー（カナダ）、シャモニー（フランス）といった スノーリゾートと比較すると、大きな差がある状況

■冬季限定のスキー場利用にとどまる

・インバウンドの伸びも、冬季の約3か月に集中＝冬季の収益に頼った経営

↓

優秀な人材の年間雇用が困難

■消費拡大望めるインバウンド需要に対応できる体制不足

① 訪日外国人・初心者スキーヤーへのインストラクター数不足
（英語力必須のため、外国人ガイドの需要が主）

② ナイトタイム・スノーコンテンツ不足

③ エリアブランディング不足（スキー場間の二次交通問題）

4. 提言

① 早急な世界水準スノーリゾートの形成

・海外のトップレベルのスキー場にも負けない国内スノーリゾートの形成を、官民で推進。
５地域程のモデル地域選定。

➡ ・夏のアクティビティの充実による通年化
・スキー場間の二次交通
・共通券システムの導入（キャッシュレス、WEB販売、顧客データ分析）

② 外国人スキー（スノーボード）インストラクタービザの取得容易化

・現状、外国人スキー（スノーボード）インストラクターはワーキングホリデーで来日することが多いが、限られた在日中（１年程度）にインストラクターの技能ビザの取得要件を満たすことが困難

③ 地方における、強いコンテンツ作成支援

・飯山市の「レストランかまくら村」といった地域に根差したコンテンツ作成による地方のコンテンツ作成の支援強化